

大阪の将来像及びめざすべき取組の方向性について（案）

第6回有識者WG資料

令和元年12月19日

大阪の将来像とそれを実現するための3つの柱について

■ 将来像を描く視点

1. 万博のインパクトを最大限活かした大阪発展のみんなの羅針盤とする。
2. 次代を担う子どもたちが未来に夢と希望をもてる。
3. 成長、府民福祉の向上に加え、SDG s はじめ世界の中での大阪を重視。
4. わかりやすく端的で心に響くことを重視。

■ 将来像を導き出す考え方

- ①大阪の歴史、②現在の大阪の位置ポテンシャル、③世界の都市の潮流
 - ④大阪万博はじめこれまでの万博、そして⑤2025大阪・関西万博、⑥世界の将来予測
- の各分析から将来像を導くアプローチ

※全体イメージや、それぞれの考え方は次ページ以降のとおり。

将来像を考えるにあたって（将来像を導く全体イメージ）

※SDGSから見ての分析含む

①歴史から導かれる
大阪の特色

②現在の大阪の位置
ポテンシャル

③世界の都市の潮流

世界の発展都市の
特色を検証

大阪の歴史的な厚み・現在のポテンシャルを活かす

大阪の将来像

70年万博の経験や近年の万博開催効果を踏まえ、
2025年万博のインパクトを最大限に活かす

④1970年万博の
成果等



⑤2025年大阪・関西
万博の意義



今後予測される課題解決
に世界とともに貢献

⑥今後の将来予測

将来像を考えるにあたって（各項目毎の分析）

①歴史から導かれる大阪の特色

- 大阪は、昔より、世界に開かれ、内外から多くの人が集まり、世界とともに発展してきた都市。
- 大阪には、人を惹きつける魅力があり、また、寛容性に富み、世界と共にこれからの社会を創りあげていく土壌がある。
- 大阪人は、進取の気質に富み、さらには社会貢献の考えを持っており、これからの社会においても、新たな価値観、社会システム等を創出し、社会課題を解決していく力がある。
- 大阪には、賑わい、楽しいといったイメージがあり、人を元気にするパワーがある。
- 大阪のまちは、多くの人が集まり、自らの可能性を発揮し、共に作り、育ててきた。今後も人に軸足を置いて未来を創り上げていく必要。

②現在の大阪の位置・ポテンシャル

- 大阪万博をピークに大阪経済は停滞も、近年はインバウンドの増等で経済は回復傾向。
- ライフサイエンスや新エネルギー産業は、大阪の成長を牽引し、さらには、国際社会（健康長寿や温暖化対策）に貢献できるポテンシャル。
- 「つくれないものない」と言われるものづくり分野における高い技術力
- 大阪は、高齢化の進展、健康寿命など課題先進都市として、AI、IoT、ビッグデータ等を活用した課題解決モデルを提示できる。
- 大学の集積や充実した交通インフラ、多様な文化芸能の魅力などの強み。
- 女性や障がい者等の雇用率は低く、全国平均以下であり、引き上げていく必要。
- 国際的な人材の流動化が進む中、留学生を含めた外国人の住みやすい地域と共生したまちづくりを進めることが必要。

【大阪のSDGsにおける現状】

- 「1貧困」「3健康と福祉」「4教育」「16平和治安」について優先的に取り組むべき課題が多い。
- 「12持続可能な生産と消費」もブルーオーシャンビジョンなどの関連から取り組むべき課題がある。
- 「11持続可能な都市」「8経済成長と雇用」「9インフラ産業」などの強みを活かす必要。

将来像を考えるにあたって（各項目毎の分析）

③世界の都市の潮流

ニューヨーク、ロンドン、東京等の金融機能の中枢を担う世界都市と異なる魅力（クリエイティブ都市、住みやすい等）で人をひきつけ、発展している都市（コペンハーゲン、シアトル、バルセロナ、ピッツバーグ、マンチェスター、ポートランド）を分析。

⇒世界の発展都市のポイント

- 大学や研究機関が都心（都市の近郊地域）に存在。
- ベンチャーキャピタル（VC）、投資家による支援。スタートアップを包括的にサポートする体制が充実。
- 革新的な企業の集積による雇用創出と、大学やベンチャー企業との連携によるイノベーションの促進。
- 地域外からの優秀な人材をも惹きつける良質な生活環境及び移住し易い環境。
- 以上のような都市ポテンシャルを踏まえ、「人にとって世界一すばらしい都市」など独自の魅力発信で世界に存在感。

④1970万博の成果等⑤2025大阪・関西万博の意義

- 1970年万博の開催により、経済効果やインフラ整備等の成果はあったが、その後の大阪の成長に十分に結びつけることができなかった。
- 2000年ハノーバー万博以降、人類社会の課題解決と開催都市の開発発展の両方をいかに成し遂げるか試行錯誤の時代。
- 2025年大阪・関西万博では、世界中の人たちが大阪に集まり、SDGsの達成に向け、これからの未来を共創していくとともに、「未来社会の実験場」のもと、Society5.0の実現に向けた様々なチャレンジが行われる。
- こうした万博のインパクトを最大限活用し、大阪が万博で実証された新たな技術やサービスの社会実装なども通じて、将来に向けた成長と府民の豊かな暮らしを確固たるものにするとともに、SDGsの達成はじめ、世界とともに国際社会に貢献していくことが必要。

⑥今後の将来予測

- 今後、世界では、地球規模での環境問題のほか、途上国を中心とした貧困等の追加的課題、先進国等における高齢化に伴う課題が進行。
- こうした世界の課題が予測される中、SDGsの達成が世界的に重要性を増している。
- 今後、科学技術はますます急速に進展。AIがもたらすおそれのある不平等や格差の拡大などの負の側面に留意しつつ、人中心(Human-Centric)の考えのもと、科学技術をすべての人の可能性を広げ、様々な世界の課題解決につなげていくことが必要。
- 万博開催都市として、大阪が先頭に立ち、先端技術等を活用し、SDGsの達成に向け、世界とともに未来に貢献していくことが必要。

Osaka -Amusing Creations-

世界一ワクワクする都市・大阪

多様なチャレンジによる成長
(Creative Innovation)

いのち輝く幸せな暮らし
(Human Well-being)

人が中心(Human-Centric) = 「誰一人取り残さない」
〔「人中心」をベースに、サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合により取組を推進〕

世界の未来をともにつくる
(Global Good Hub Osaka)

その他の英語表記案
「Origin of Paradigm」
「Birth Place Paradigm」

※ローカル、グローバルの両面から3本の柱でSDGs先進都市としての取組を推進



大阪がめざす将来像とそれを実現するための3つの柱（考え方）

「Osaka -Amusing Creations-」（世界一ワクワクする都市・大阪）とは

- 「Amusing」は、面白い、楽しいという意味を指すが、この言葉から連想される、予測不可能性、前向きさなどの意味を持たせ、さらには、こうしたまちを共創（Creations）していくという意味を含め、「Osaka -Amusing Creations-（世界一ワクワクする都市・大阪）」とした。
- このような意味は、大阪の歴史に培われた「人を惹きつける魅力」や「おもてなし精神」、「笑いの文化」などとも合致し、「まちがにぎやかでおもしろい」といった、現在の大阪に対するイメージとも合致する。
- また、世界は気候変動や環境破壊、グローバル化による格差の拡大など大きな課題を抱えている。日本でも人口減少、少子高齢化のなかで、今後、いかに社会を維持していくのか、日々の生活をいかに豊かなものにしていくのかが問われている。こうした世界、日本の課題にひるむことなく、前向きに進んでいく、意味合いも込めた言葉とした。
- 2025年大阪・関西万博では、SDGsをはじめ世界が直面する課題を解決し、明るい希望が持て、ワクワクするような未来社会を描くとともに、こうした社会を実現していくために、世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創（Co-Creation）していく場となる。
- 大阪らしさを発揮し、2025大阪関西万博後の世界、日本、そして大阪が実りあるものとなるよう、子どもたちをはじめ、すべての府民にわかりやすく・明るい未来を伝えるとともに、今後、実社会（フィジカル空間）だけでなく、仮想空間（デジタル空間）において、世界中の人々となつがっていく中で、世界に向けて大阪の都市のイメージを発信していくという観点から、「Osaka -Amusing Creations-（世界一ワクワクする都市・大阪）」は相応しい将来像である。

①多様なチャレンジによる成長 （Creative Innovation）

都市の寛容性を高め、多様な人材を呼び込み、様々なことにチャレンジできる環境を整え、イノベーションの促進を図るなど、持続的な成長の取組を推進。

②いのち輝く幸せな暮らし （Human Well-being）

すべての人が生涯にわたって、自らの能力や可能性を発揮し、健康でいきいきと活躍できる社会の実現に向けた取組を推進。

③世界の未来をともにつくる （Global Good Hub Osaka）

誰もが世界とつながり、世界の人々とともに「ひとを救い、地球を守る」ソーシャルグッドな取組を推進

人が中心(Human-Centric) = 「誰一人取り残さない」

→人中心の考え方のもと、AI,IoT等の先端技術を活用（サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合＝超スマートシティ）し、大阪の将来像の実現に向けた取組を推進。

- 大阪のまちは、古より、世界に開かれた我が国の玄関口として、内外から多くの人が集い、交流し、新たなビジネスや文化などを生み出すことで都市として発展してきた。現在、世界の中で発展する都市をみても、寛容性をもって内外から多くの人を受け入れ、様々なイノベーションを創出することで持続的に発展。
- 今後、AIやIoT、ロボットなど科学技術がどれだけ進展しても、「人」がまちをつくり、「人」がまちを育てていくことは変わらない。
- 「人中心」の考え方のもと、AI,IoT等の先端技術を活用しながら、すべての人たちが可能性を最大限に発揮し、共に大阪を創り上げていくことが必要。こうした考えは、2025年大阪・関西万博の理念とも一致。

3つの柱ごとのめざすべき取組の方向性

めざすべき取組の方向性①

多様なチャレンジによる成長 (Creative Innovation)

都市の寛容性を高め、多様な人材を呼び込むとともに、様々なことにチャレンジできる環境を整え、イノベーションの促進を図るなど、持続的な成長に向けた取組を推進。



あらゆる疾病を制圧する世界的なライフサイエンスクラスターの形成

- 健康・医療に関連するライフサイエンス分野の世界的な産業クラスターが形成され、感染症、がん等あらゆる疾病を制圧する革新的な医薬品、医療機器、未来医療技術の開発が促進



世界初の革新的な製品等を生み出すイノベーション拠点の形成

- ものづくりの蓄積を活かし、AIやIoT、ビッグデータ、ロボットなどの先端技術の活用や、製造業とサービス業等のアイデア、ネットワークを融合させ、世界初の革新的な製品やサービスを創出

チャレンジする人を全力で応援するスタートアップ拠点の形成

- ITベンチャー、大学発ベンチャー、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなど様々な形態の起業ができ、失敗が許容され、何度でも挑戦できるスタートアップ拠点の形成



産業・ベンチャー

都市魅力

持続的な成長に向けた環境負荷ゼロの実現

- 新エネルギー産業のポテンシャルを活かし、「CO2実質排出ゼロ」を実現
- 海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を実現。



環境

すべての人が自らの能力を発揮できる働き方の実現

- ワークライフバランスや、先端技術を活用したフレキシブルワークなど新しい働き方が実現
- 性別、国籍、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが自らのアイデアや能力を活かした働き方が実現。

働き方・学び直し



都市基盤

都市の活力を支えるシームレスな交通ネットワークの充実

- 自動運転、Maasなどの先端技術の活用や、公共交通の整備など、都市の活力を支えるシームレスな交通ネットワークを実現



サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合によるデータ利活用の基盤形成と、世界とつながるハブ機能の形成

- イノベーションの創出など持続的な成長や社会課題の解決につながる、個人情報等のセキュリティが確保されたデータ利活用基盤の形成。
- 実社会だけでなく、サイバー空間（仮想空間）で世界とつながり、世界中の多くの人材が日々大阪を行き来するハブ機能を形成

めざすべき取組の方向性②

いのち輝く幸せな暮らし
(Human Well-being)

①の取組成果なども活かし、すべての人が生涯にわたって、自らの能力や可能性を発揮し、健康でいきいきと活躍できる社会の実現に向けた取組を推進。



誰もがいきいきと活躍できる「10歳若返り」の実現



- いつでも遠隔医療やオーダーメイド医療などの先端医療を受けることができ、また、AIによるケアプランの作成や、リハビリロボットの進化等により生活の質の向上。
- 大阪の豊かな食や笑いの文化を活かした健康寿命の延伸
- 家や街中でセンサーで健康をサポートするなど、先端技術を活用して、平均寿命と健康寿命との間の差を縮める「10歳若返り」を実現。

誰もが安心して子育てできる環境の充実

- ソーシャルキャピタル（地域のつながり）の再生や、先端技術などを活用した子育て支援が充実するなど、子供がいきいきと成長できる環境が充実。

貧困の連鎖を断ち切り、子どもの輝く未来をつくる

- 教育、就労、生活支援など総合的な対策を充実し、貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちが同じスタートラインに立ち、輝く未来に向かって進むことができる環境を実現。

健康

子育て・貧困

人の命を守る世界一の安全・安心を実現

- 予知技術や減災のための基盤、技術の発展などにより、災害で犠牲になる人を出さない災害対策が実現。
- スマート住宅や最先端の防犯システム等による見守り機能の充実や、自動運転技術等による交通事故対策などにより、最先端のセーフティなまちを実現

安全・安心

教育

多様な価値観をもった、世界で活躍する次世代を育成

- 実社会に加え、サイバー空間上で、大阪に居ながら世界の子どもたちと交流することで、多様な価値観や世界的視野を育み、世界で活躍できる次世代人材を育成。

バリアフリー

住環境

世界トップレベルのバリアフリー（ハード・ソフト両面）を実現

- 街中にユニバーサルデザインが浸透するとともに、「心のバリアフリー」が推進され、性別、国籍、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが生き生きとした人生を享受することができる世界トップレベルのバリアフリーを実現



人にやさしい暮らしやすいまちづくり

- これまでの自動車中心のまちづくりから、歩行者中心のまちづくりに転換し、健康や環境、人にやさしい暮らしやすいまちを実現

自然が再生され、自然にふれあえる環境との共生

- 海や河川などの自然が再生され、身近に自然や四季が感じられ、ふれあえるまちを実現



めざすべき取組の方向性③

世界の未来をともにつくる
(Global Good Hub Osaka)

誰もが世界とつながり、世界の人々とともに「ひとを救い、地球を守る」ソーシャルグッドな取組を推進



■ ①と②取組を通じて、世界の課題解決に貢献するとともに、ソーシャルグッドな取組を推進する次世代を育成

大阪が有するライフサイエンスのポテンシャルやものづくり技術などを活かし、世界に先駆けて高齢化が進展する課題先進都市として、世界の健康・医療に貢献

世界に向けた「いきいきと活躍できる高齢社会モデル」の発信

・「10歳若返り」の取組を通じて、誰もが生涯を通じ、自らの意思に基づき活動的に生活できる健康づくりや社会システムを大阪から世界に向けて発信していく

世界のいのちを救う未来医療の実現

・有効な治療法が確立していない病の克服や、誰もが安価に利用できる医療環境の実現などを目的に、世界に貢献する革新的医薬品や未来医療の実現をめざす



大阪が有する新エネルギー産業等のポテンシャルや公害対策などの経験を活かし、G20大阪サミットのホストシティとして、地球環境を守る取組を先導

世界の人たちとともに地球を救う「CO2実質排出ゼロ」を実現

・新エネルギー産業等のポテンシャルや公害対策などの経験を活かした「CO2実質排出ゼロ」の実現をめざす都市基盤の整備など、大阪が環境先進都市として世界のトップランナーをめざす

G20大阪サミットの環境合意を先導

・海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」や、循環経済、持続可能な物質管理、3R及び廃棄物の価値化などの世界での推進を大阪が先導していく

大阪人が有する進取の気質やおせっかいの精神も活かし、地球の未来や世界の人々のことを考え、行動できる次代を担う人材を育成

地球の未来を救う次世代の育成

・大阪人が有する進取の気質やおせっかいの精神も活かしながら、世界の子どもたちとの交流や、身近な地域課題に対するソーシャルグッドな取組を通じて、地球の未来や世界の人々を考え、自ら行動できる次代を担う子どもたちを育成していく（世界のESD先進モデル）。

■ 大阪的価値観を世界的な取組を促す新たな価値観へ

○「三方よし」⇒「WIN-WIN-WIN」

・ビジネス面でのメリットが享受されつつ、買い手や利用者の満足と世界への貢献の三方が満たされた経済モデル、持続可能な仕組み（フェアトレードやソーシャルビジネス等）を社会のあらゆる場面で実装していくことで、「三方よし」＝「WIN-WIN-WIN」の精神を世界的な新たな価値観としていく。

○「おせっかい」⇒「Osekkai」

・「お節介」とは、一般的に「人のことに不必要に立ち入る」という意味があるが、大阪人の「おせっかい」は、相手のことをおもしろい、助けたい・楽しませたいと考え行動するもの。「おせっかい」精神＝「Osekkai」を通じて、世界の人たちが共に支え合い、世界を共創していく新たな価値観を生み出していく。

ビジョン取りまとめに向けて
(将来像の時間軸の考え方)

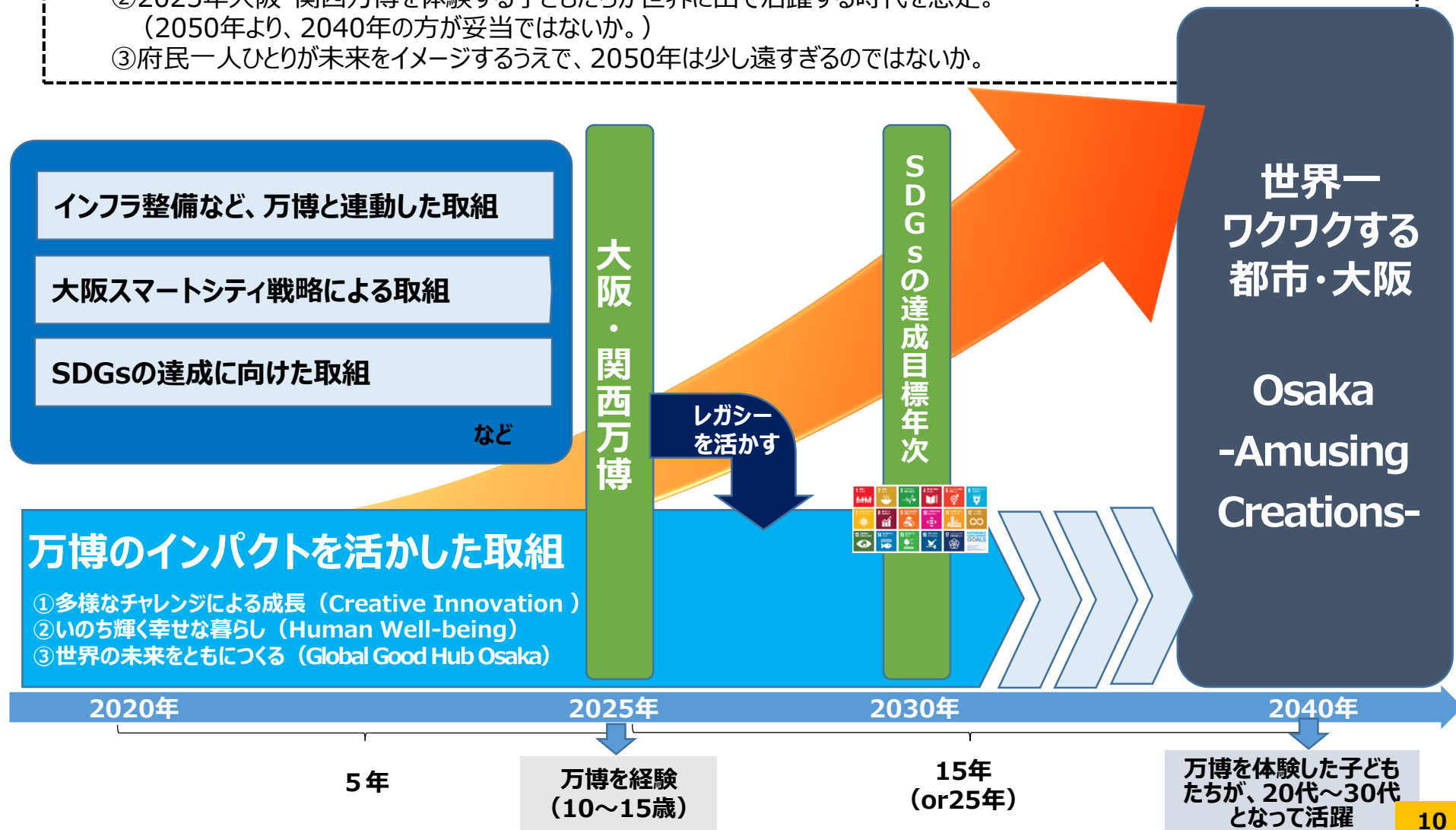
ビジョンのとりまとめに向けて（将来像の時間軸の考え方）

○これまでの考え方（第1回WG）

・地球温暖化対策、「大阪ブルーオーシャンビジョン」の目標年次や、科学技術の進化（シンギュラリティの到達）等を踏まえ、将来像の時間軸として未来感の持てる「2050年」と一旦設定。

○以下の理由から2040年と設定した方がよいのではないか。

- ①今後の人口動態を踏まえると、2040年に、団塊ジュニア世代が高齢者となり、高齢者人口がピークに。
- ②2025年大阪・関西万博を体験する子どもたちが世界に出て活躍する時代を想定。（2050年より、2040年の方が妥当ではないか。）
- ③府民一人ひとりが未来をイメージするうえで、2050年は少し遠すぎるのではないか。



參考資料

参考：将来像を導くアプローチに係る3つの柱ごとの整理表

多様なチャレンジによる成長
(Creative Innovation)

いのち輝く幸せな暮らし
(Human Well-being)

世界の未来をともにつくる
(Global Good Hub Osaka)

歴史の厚み	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の人を惹きつける魅力 ・進取の気質 ・賑わい、楽しいといった都市イメージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の人を受け入れる寛容性 ・進取の気質 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に開かれ、世界とともに発展 ・「三方よし」など社会貢献の精神 ・進取の気質
1970年 大阪万博	<ul style="list-style-type: none"> ・70年をピークに大阪の地位は低迷 ・電気自動車、動く歩道などの新技術の開発 ・J V方式など新たなビジネスモデルの開発 ・建築、芸術、ファッション分野等のクリエイティブ人材の発掘、活躍 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流を通じた多様性の向上 ・バリアフリー化の進展の契機 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中の英知を結集し、相互理解を深め、世界平和と人類の福祉の増進に寄与 ・世界の中の日本・大阪を認識
大阪のポテンシャル (強み)	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスの取れた産業構造 ・ライフサイエンス産業の集積 ・製造業の集積と高度なものづくり技術 ・新エネルギー産業の集積 ・うめきた等のスタートアップ拠点の形成 ・歴史、文化、食等の多彩な都市魅力 ・大学の集積、公立大学統合による研究機能の高度化 ・G20大阪サミットの開催の成果 <ul style="list-style-type: none"> ➢大阪ブルーオーシャンビジョン ・充実した都市インフラ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス産業の集積 ・地震や台風などの災害の教訓 ・留学生や外国人材の受入 ・充実した都市インフラ・豊かな生活環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス産業の集積 ・新エネルギー産業の集積 ・G20大阪サミットの開催の成果 <ul style="list-style-type: none"> ➢今後の世界を共に考える場 ➢大阪ブルーオーシャンビジョン ・アジアを中心とした世界とのつながり ・高度経済成長期における公害対策の経験
大阪の課題 (弱み)	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の就業率 ・緑化率・都市インフラの老朽化 ・イノベーションなど産業競争力の更なる強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命 ・子どもの貧困 ・治安 ・障がい者の就業率 ・子供の学力・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命 ・高齢化の進展 ・都市インフラの老朽化
SDGsから見た 大阪の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・国内的に評価の低い「1 貧困」、「3 健康と福祉」、「4 教育」、「16 平和治安」について優先的に取り組むべき課題が多い。 ・国際・国内的にも評価の低い「12 持続可能な生産と消費」は、ブルーオーシャンビジョンなどの関連から取り組むべき課題がある。 ・自治体の様々な役割等を包摂する「11 持続可能な都市」に関する取組や、国際・国内評価の高い「8 経済成長と雇用」、「9 インフラ・産業化・イノベーション」の強みを活かすことが重要 		
今後の将来予測	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ロボット、XR等の技術進化 ・再生医療等の未来医療の進展 ・働き方の多様化（テレワーク、副業等） ・インドやアフリカなどの経済成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・超高齢社会 ・AI、IoT、自動運転等の技術進化 ・再生医療等の未来医療の進展 ・災害リスクの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国等を中心とした高齢化の進展 ・気候変動等の地球規模の課題 ・途上国を中心とした人口増加に伴う貧困等の追加的課題 ・科学技術の飛躍的進化
2025年大阪・ 関西万博	<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGsの達成+beyond」に向けた取組の加速 ・Society5.0の実現に向けた新たな技術やサービス実証など、様々なチャレンジ ・世界の人たちとともに未来を考え、共に創り上げていくCo-Creation) 		
世界の都市 の潮流	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ支援体制の充実 ・企業と大学等の連携 ・独自の魅力を世界に発信 ・環境にやさしいまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・寛容性をもって多様な人材を受け入れ ・自動車中心から人中心のまちづくりへ転換 (バリアフリー、ウォーカーブル、健康づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの達成に向けた取組の推進 (環境負荷の軽減、ダイバーシティの推進など)